

PROJECT CONCEPT

マルチ・レイヤード・アイデンティティーズは、2018年4月～5月に京都市内の複数会場で開催されるアーティスト・イン・レジデンス及び展覧会である。Multi Layered（複数層）の Identity（アイデンティティ）を自覚する参加アーティストたちは、滞在制作を通じて自らの存在を見つめ直す。多国籍企業による経済活動を主軸としたグローバリズムから、一律的なものの見方ではなく、多様な価値観を受け入れる重要性が問われるポスト・グローバリズムへと時代は変容し、地域社会に根ざしたローカル的重要性が再認識されている。アーティストもまた、変容する時代を映す鏡として、地域文化への関わり方を問い合わせる。オーストリアのウィーンを拠点に活動する東野は、アール・ヌーヴォーで見る西洋と東洋の歴史上の国際交流と京都文化への影響を調査し、イスラエルより日本へ移住し陶芸家として活動する父親との共同で作品制作する。京都の国際交流

の足跡をたどることで、今後のヨーロッパと日本の関わり方のひとつの形を示す。日系人の血筋ながら日本文化との接点を持ったこなかったカナダ人のササキは、外国人ならではのステレオタイプな視点から日本文化を考察し、ユニークでシニカルなビデオ作品を制作する。ササキのユーモア溢れる日本人にはない発想からの作品は、鑑賞者に笑顔を与えてくれるだろう。多文化主義社会トロント在住20年近くになる武谷は、京都のローカルな町家文化のグローバリゼーションを試みる。武谷の作品制作プロセスにおける文化の隙間を確認する作業は、グローバリズムとは逆に、町屋の素晴らしさを再度我々に気付かせてくれる。現在、台湾に拠点に活動するマレーシア出身のアーティスト・アクティビストであるラーマンは、京都で「ひと箱古本市」を主催する中川と共に蚤の市を開催する。ラーマンが主宰する「ブク・ジャラナン」と題された蚤の市は、現在では世界9

箇所に広がったマレーシアの文化労働者の集団的コミュニティベースの文化リテラシー・イニシアチブである。今回京都市においては、古本店や、本の世界を体感する試み、創作落語といった京都市民による複数の文化芸術グループとの交流によって、異文化間のリテラシーを拡張する。国際化した現代京都の日常生活における「らしさ」とは何か。上記4つの異なるプロジェクトの同時開催による複数層的な効果は、ローカルな場においての小さなグローバル化という国際都市京都、或いはオリンピックを控えた日本の全体の課題に答えるものである。逆に、アーティスト達にとっては、グローバルな活動の場からローカルへの帰還もある。その制作過程とは、拠り所としてのアイデンティティの回帰であり、すなわち、「らしさ」の再認識の旅路である。

武谷 大介

Multi Layered Identities is a project consists with exhibitions and artist in residence programs held at multiple venues in Kyoto, Japan from April to May, 2018. Participating artists aware of their own "Multi Layered Identity" will rethink their existence through their production process during the residency. From Globalism era centered on economic activities by multi-national major corporations, our present time has been shifted into Post-Globalism era where the importance of accepting diverse values and importance of locale rooted in the communities has been re-recognized rather than a uniformed global value. Artists also ask questions about how to engage in local culture, reflecting the current paradigm shifts. Higashino based in Vienna, Austria will investigate history of international exchanges between East and West and the influence on Kyoto culture via Art Nouveau, and collaborate and create a body of works with his father who has migrated to Japan from Israel and been working as a

ceramicist. By tracing historical footsteps of international exchanges in Kyoto, he will show us one aspect of how Europe and Japan will be involved in the future. Sasaki of Canada has not had any particular contacts with Japanese culture while his blood streams from Japanese. Sasaki will observe and study Japanese culture from a stereotypical view point of a foreigner, and create a unique and cynical video work. Sasaki's work filled with his sense of humor will certainly give smiles to viewers. Takeya, who has lived in multiculturalism society of Toronto for nearly 20 years, will attempt to globalize Kyoto's "Machiya" local town house culture. Looking into cultural gaps within Kyoto's narrow streets through his production process, Takeya will make us remember the importance of "Machiya" culture again, contrary to his attempt of Globalization. Currently based in Taiwan, a Malaysia-born artist and activist Rahman, will hold a flea market in collaboration with "Hitohako-Furuhon-Ichi (one-box second-hand market)" by

citizens of Kyoto. "Buku Jalanan," lead by Rahman is a community-based cultural literacy initiative of Malaysian cultural workers, and is now spread to 90 locations around the world. This time in Kyoto, Rahman will explore international cultural literacy by interacting with several cultural groups of Kyoto locals, such as a flea market of second-hand books sellers, sensing the world of books, and "Rakugo" story telling creatives. What is "uniqueness" in internationalized contemporary daily life in Kyoto? The multilayered effects created by holding the four different projects at once is to respond, by small Globalization in local contexts, to issues raised for international city Kyoto or the entire Japan awaiting to host the Olympic Games. For the artists who are active in global contexts, this will make them return to locale as a base of their minds. Its production process is a journey of their identity regression, and re-recognition of their uniqueness.

Daisuke Takeya

ACCESS



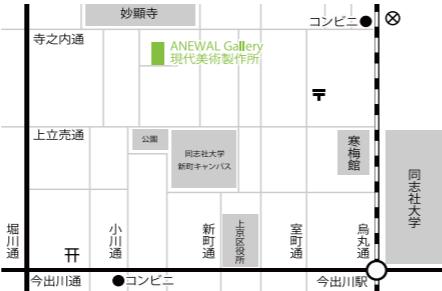
臨済宗 興聖寺

京都市上京区堀川町寺ノ内上2



Bazaar Cafe

京都市上京区岡松町258



ANEWAL Gallery 現代美術製作所

京都市上京区挽木町518路地内

アーティスト / 展示期間

サミュエル・アンドレ 5/10 - 5/13
(LIVE WITH クリス・モスドル)
5/13 LIVE

ジョン・ササキ 5/12 - 5/13

武谷 大介 5/12 - 5/13

アーティスト / 展示期間

ジクリ・ラーマン 5/12

アーティスト / 展示期間

東野 雄樹 4/27 - 5/13
(OPENING WITH アヴィ・ベラハ) 4/26 OPENING

ANEWAL Gallery Residency Program

ANEWAL Gallery Residency Program は、古民家や路地、寺など地域の特徴ある空間を複数活用し、地域のパートナーと共に滞在制作の場を提供するプログラム。年1組程度の招聘・公募枠の他、有償での滞在は年次で可能。主体となるNPO ANEWAL Galleryは廃屋から重要な文化財まで都市のさまざまな場所においてアート・デザインを活用した地域の活性化を図るプロジェクトを企画・実施している。

※各会場に駐車スペースはございません。公共交通機関をご利用いただくようお願いいたします。
また駐輪スペースも数台分のみと少なくなっています。ご了承ください。
お寺で行う展覧会に関しては法要を含む、急なお勤めにより入館できない場合がございます。
事前告知を行いますので、facebook、twitter[@anewalgallery]をご確認ください。

ANEWAL Gallery Residency Program provides spaces for creation and residency by utilizing traditional Japanese houses, temples and other unique architectures by collaborations with local community partners. The program accepts one artist (or a group) per year by an invitation or an open call. All year around residency program with compensation is also available upon request. NPO ANEWAL Gallery, the organizer of this program, plans and implements projects for community revitalizations through art and design in various locations, sites and spaces such as abandoned houses or the important cultural properties in the city.

《展覧会に関するお問い合わせ》MLIDs 実行委員会(事務局: NPO ANEWAL Gallery 内) tel: 075-431-6469 / mail: contact@anewal.net / address: 京都市上京区実相院町156

M U L T I

L A Y E R

E D I D E N

T I T I E S

4/26・5/13 「らしさ」の再認識

入場無料

Multi Layered Identities

主催: MLIDs 実行委員会 | 共催: NPO ANEWAL Gallery | 会場協力: 臨済宗興聖寺、Bazaar Cafe、現代美術製作所
滞在協力: ANEWAL Gallery Residency Program | 助成: アーツサポート関西、カナダカウンシル、オーストリア連邦首相府
キュレーション: 武谷大介、NPO ANEWAL Gallery



BUNDESKANZLERAMT ÖSTERREICH
FEDERAL CHANCELLERY OF AUSTRIA



Canada Council
for the Arts
Conseil des arts
du Canada

ANEWAL Gallery
Residency Program



ART EXHIBITION IN KYOTO

会場の性質上、開廊・休廊に急な変更が生じる場合がございます。SNSをご確認ください。

[anewalgallery](#) [@anewalgallery](#)

ARTIST INTRODUCTION

東野 雄樹 Yuki Higashino

東野雄樹は、オーストリアのウィーンを拠点に活動。2010年、フランクフルトのStädelschule修了。近年の個展と二人展に、ウィーンのAnnaでの「Furnished(2017年)」、チューリッヒのKIOSK TABAKでの「The Portraitist(2017年)」、ブルノHouse of Arts内のG99ギャラリーでの「東野雄樹/エリザベス・キールストロム」(2016年)、ウィーンのSchneidereiでの「特別な理由なしに特定の時間に特定の場所に収束した無意味な恐怖」(2016年)、ウィーンのピナコテカでの「赤い目の雄牛」(2014年)、同じく2014年にエリザベス・キールストロムと共に、マルモのSkåneskonstföreningでの「Territories」、とストックホルムのMount Analogueでの「Port」。Le BBBアートセンター(トゥールーズ)、Living Art Museum(レイキャヴィーク)、Fotografisk Centre(コペンハーゲン)などで開かれたグループ展に参加。ArtForum、Texte zur Kunst、Camera Austria、springerinなどの媒体に寄稿。

様式の死 The Dying Style

経済、政治、芸術とデザインの歴史、社会の動向、などを含む複数の要素によってもたらされる、様式についての死をテーマに扱う。複雑なテーマへのアプローチとして、ユダヤ人陶芸家である東野の父親アヴィ・ベラハ氏にアールヌーヴォーの花瓶を基にした作品制作を依頼。意見交換の結果としての作品アンサンブルは、スタイルそのものの概念と類似の関係を持つ。文化的ダイナミズムに含まれる美しさと混乱は、様式の厄介な問題に適合していると言えるだろう。



Study for The Dying Style 1

会場
ANEWAL Gallery 現代美術製作所

期間：4.27(fri) - 5.13(sun)
Open : 11:00 - 19:00 / Close on Monday

1. オープニング＆アーティストトーク
東野 雄樹 & アヴィ・ベラハ

4.26(thu) Start 19:00 - Close 21:00

2. ギャラリートーク
A 4.28(sat) Start 15:00 -
B 5.11(fri) Start 17:00 -

3. ディスプレイとしてのアート

ディスプレイ作家エリザベス・キールストロムの講演
5.11(fri) Start 18:00 -

ジョン・ササキ Jon Sasaki

トロントを拠点に活動するマルチ・アーティスト。パフォーマンス、ビデオ、オブジェクト、インスタレーションなどの作品を通じて、期待と結果が決して合わないフレームワークを元に苦悩と楽しい感覚を同時に生成している。個展に、オタワ・アート・ギャラリー(オタワ、オンタリオ州)、南アルバータ美術館(レスブリッジ、アルバータ州)；オンタリオ州アート・ギャラリー、など。近年のパブリック・アート作品には、シェリダン・カレッジ(オークビル、オンタリオ州)、共同制作者のジェニファー・デイビスと共に2017年オンタリオ州建築家協会からコンセプト賞を受賞したオンタリオ州バーリー市のコミッションなどがある。彼のビデオ作品は、MCA(シドニー、オーストラリア)、Brick + Mortar 映画祭(グリーンフィールド、マサチューセッツ州)、イメージ・フェスティバル(トロント、オンタリオ州)などで上映された。2015年カナダ・グレンフィディック・アーティスト賞(ダフタウン、スコットランド)受賞。マウント・アリソン大学(サックビル、ニューブランズウィック州)修了。トロントのクリント・ロゼニッシュ・ギャラリー所属。

<http://www.jonsasaki.com/>

無限の断片

A Fragment of Infinity

作家ジョン・ササキは、タイプライターを持ち込み、岩田山公園のニホンザルの住人が「シェイクスピア全集」に似たものを作るのかどうかを調査する事によって、「無限の猿定理」が起りうるかを実験します。無限の連続の中からの一瞬を刻むことによって、アーティストは、偶然、プロセス、そして期待といったアイデアの探求を切望する。



After a Mural I Painted in Grade Four, 2013, HD video, 34 min. Produced by the Koffler Centre of the Arts for the exhibition We're in The Library, November 2013

会場
臨濟宗 興聖寺

期間：5.12(sat) - 5.13(sun)
Open : 12:00 - 18:00

武谷 大介 Daisuke Takeya

トロント東京を拠点とするアーティストであり、時にキュレーター、コレクター、アート教育者、コミュニケーションなどの作品を通じて、期待と結果が決して合わないフレームワークを元に苦悩と楽しい感覚を同時に生成している。個展に、カナダ現代美術館(トロント)、国際交流基金トロント日本文化センター、スコティアバンクニューブランシュ(トロント)、SVA ギャラリー(ニューヨーク)、ワーグナー大学ギャラリー(ニューヨーク)、重慶長江現代美術館(中国)、福島ビエンナーレ、セゾンアートプログラム、六本木アートナイト、在日本カナダ大使館高円宮記念ギャラリーなど。また、彼は、遠足プロジェクト及び遠足プロジェクトアジア・マレーシアコーディネーターとして第一回クアランブル・ビエンナーレ、第7回クアランブル・トリエンナーレ芸術祭、バダン・ジャワ・ストリート・アート・フェスティバル、インドネシア・ジャカルタのグダン・サリーナで開催されたシンディカット・チャンブルサリ展などに参加。LiteraCityの文学のレンズを通じて、クアランブルの文化的・文学的マッピングプロジェクトを立ち上げた。現在、台湾の大学院にて社会学と文化学の修士過程に在籍中。ラーマンは、また、時にさまざまな一時的な複数のプラットフォーム上にて、作家、インデペンデントの研究者、翻訳者、ボッドキャスターとして活躍中。

<http://www.daisuketakeya.com>
<http://fieldtrip.info>
<http://asia.fieldtrip.info>
<http://www.fukushimaonalice.com>
<http://elpoepeht.com>
<http://www.daiichiprojects.org>

まちの小さなグローバリズム Pocket Globalism in My Hood

京都のお寺や町家文化。そこに一時的なグローバル化を仕掛ける。何か見えてくるのか。



Reaching Out, Still, 2018, premiered at the 23rd NIPAF at the 3331 Arts Chiyoda, Tokyo, Japan on March 20, 2018. Photo by Miyaki Inukai

会場
臨濟宗 興聖寺

期間：5.12(sat) - 5.13(sun)
Open : 12:00 - 18:00

■望月住職とのコラボアクト 5.13(sun) Start 13:00 -

ジクリ・ラーマン Zikri Rahman

多様な学際的な社会政治的活動や様々な文化活動のプロジェクトに常に携わるアーティストであり、知識生産のモードを分散させることに焦点を当てた、文化労働者の集団的およびコミュニティベースの文化リテラシーイニシアティブである Buku Jalanan (ブク・ジャラナン) の共同設立者。「根茎」のように運営されているこのイニシアティブは、およそ 100 の異なる場所に拡散中で、世界中の何百人の自治文化労働者たちに採用されている。彼はまた、「遠足プロジェクトアジア・マレーシア」コーディネーターとして第一回クアランブル・ビエンナーレ、第7回クアランブル・トリエンナーレ芸術祭、バダン・ジャワ・ストリート・アート・フェスティバル、インドネシア・ジャカルタのグダン・サリーナで開催されたシンディカット・チャンブルサリ展などに参加。LiteraCityの文学のレンズを通じて、クアランブルの文化的・文学的マッピングプロジェクトを立ち上げた。現在、台湾の大学院にて社会学と文化学の修士過程に在籍中。ラーマンは、また、時にさまざまな一時的な複数のプラットフォーム上にて、作家、インデペンデントの研究者、翻訳者、ボッドキャスターとして活躍中。

<http://http://ieva.free.fr/e/>

不明の言語帳 Language Book of the Unknown

Languange Book of the Unknown

Buku Jalanan (ブク・ジャラナン) の活動を派生させることは、私たちが単なる伝達手段としての言語を超えて、相互に学習しあえる知識共有の可能性を検討することである。未知の新しい形の「言語」を創造するメディエーターとして、滞在期間を通して ZINE の制作を行い、交流の文書化を行いたい。



Tsuyume, at ANEWAL Gallery 2015.
Photo by Yoshinori Morishima

会場
臨濟宗 興聖寺

期間：5.10(Thu) - 5.13(Sun)
Open : 12:00 - 18:00

1 早朝 座禅会 興聖寺 望月住職 監修のもとサウンドアーティストサミュエル・アンドレが制作した瞑想の為の音源とともに座禅していただけです。会場に直接お越しください。

5.10(Thu) - 5.13(Sun) Start 6:20 - 6:55

2 ライブパフォーマンス※ 詩人クリス・モスデルとのライブパフォーマンス

5.13(Sun) Start 18:30 - 19:30

クロージングトーク 問答トーク Multi Layered Identities & 興聖寺 望月住職

5.13(Sun) Start 16:30 - Close 18:00 ※終了後 18:30 から特別ライブを行います。

会場：臨濟宗 興聖寺

本プロジェクト参加アーティスト達と、興聖寺住職による問答形式のトークセッション。アートと宗教、芸術家と宗教家、ムスリムと禪僧。異者達による世界を、合わせ鏡的視点から捉える予測不能な試み。

※5月13日は混亂を避ける為、駐車場はもちろん、駐輪場の使用もできません。公共交通機関でお越しくださいますよう、お願い申し上げます。
※トークセッションを含む展覧会への入場は無料です。また、活動に賛同頂けた方からのドネーションは随時受け付けております。

プロジェクトに参加するアーティストの紹介と、会場で行われる様々な企画の紹介をしています。

企画の詳細についてはfacebook:「anewalgallery」を参照ください。展覧会・イベントへの入場は無料です。

サミュエル・アンドレ Samuel André

1978年生まれフランス出身。マルチメディア・アーティスト。大学で数学と認知科学を専攻し、音楽とインスタレーションによる作品をヨーロッパ、アメリカ、アジアなど各地で発表。サウンド・アーティストとしてのサミュエル・アンドレは2013年に奈良の芸術祭「ならあと」で「縁側」という作品を設置し、2014年に「Nuit Blanche」で京町家の光りによるライブパフォーマンス、舞踏などのコラボレーションを演出。さらに2015年に京都国際現代芸術祭「PARASOPHIA」で昭和時代の園地を舞台に様々なパフォーマンスを展開。現在は日本を拠点に活動している。

<http://http://ieva.free.fr/e/>

S

美しく荘厳な龍が描かれた本堂、四季の移ろいを感じる庭。今回彼の作品の舞台となるのは、普段は拝観できない臨濟宗 興聖寺。お寺の中にある音を使って構成される彼のサウンドアートは、仏教の思想世界と眼前の現実世界を融合させ、幻想的な空間へと変えてくれる。



ユキハヤシ・ニューカーク詩人賞、コロラド州ボルダーの文学祭詩人部門金賞を受賞。作詞家としてマイケル・ジャクソン、エリック・クラプトン、サラ・ブライトマン、ボイ・ジョージ、坂本龍一、YMOなどに彼の詞がレコードで採用され、またガンダム、攻殻機動隊、カウボーイ・ビバップなどのアニメのサウンドトラックにも詞を提供している。著書に『Splatterhead: The Songlines of Chris Mosdell』(2001)、『City of Song: The Incendiary Arias』(2005)、『The Kantocles: Songs from the Atomic Aisles』(2013)などがある。

<http://www.chrismosdell.com/>

ライブパフォーマンス Live performance with Samuel André

著作「密詩集・絹の都」から抜粋した詩と、サウンドアーティスト・インスタレーションアーティストのサミュエル・アンドレとのコラボレーションライブ。

5.13(sun) Start 18:30 - 19:30

ライブパフォーマンス Live performance special session

サミュエル・アンドレ、クリス・モスデルに加え、ゲストとして興聖寺 望月宏済住職と鳳笙奏者 井原季子による芸術、宗教、文学、伝統が重なり溶け合うライブパフォーマンス。インスタレーション "S"、クロージングトーク、そしてプロジェクト "Multi Layered Identities" の世界を可視・可聴化します。

5.13(sun) Start 18:30 - 19:30

クリス・モスデル Chris Mosdell

ユキハヤシ・ニューカーク詩人賞、コロラド州ボルダーの文学祭詩人部門金賞を受賞。作詞家としてマイケル・ジャクソン、エリック・クラプトン、サラ・ブライトマン、ボイ・ジョージ、坂本龍一、YMOなどに彼の詞がレコードで採用され、またガンダム、攻殻機動隊、カウボーイ・ビバップなどのアニメのサウンドトラックにも詞を提供している。著書に『Splatterhead: The Songlines of Chris Mosdell』(2001)、『City of Song: The Incendiary Arias』(2005)、『The Kantocles: Songs from the Atomic Aisles』(2013)などがある。

<http://www.chrismosdell.com/>

ライブパフォーマンス Live performance with Samuel André

著作「密詩集・絹の都」から抜粋した詩と、サウンドアーティスト・インスタレーションアーティストのサミュエル・アンドレとのコラボレーションライブ。

5.13(sun) Start 18:30 - 19:30

ライブパフォーマンス Live performance special session

サミュエル・アンドレ、クリス・モスデルに加え、ゲストとして興聖寺 望月宏済住職と鳳笙奏者 井原季子による芸術、宗教、文学、伝統が重なり溶け合うライブパフォーマンス。インスタレーション "S"、クロージングトーク、そしてプロジェクト "Multi Layered Identities" の世界を可視・可聴化します。

5.13(sun) Start 18:30 - 19:30